

1998年10月09日 第三種郵便物認可 (毎月3回8の日発行)

2024年6月2日発行 SSKU 増刊通巻 7904号

SSKU

2024年度

お元気ですか？ イリアンソスです。



Page2 理事長の散歩道

Page3 活動報告

Page7 がんばれイリアンソス

連載

理事長の散歩道

③③

「一人ひとりに寄り添って」 社会福祉法人イリアンソス 理事長 磯部光孝

一月一日の十六時一〇分に能登半島付近を震源地とする最大震度七強の地震が発生しました。特に奥能登地方では、多くの家屋が全壊し、道路はがけ崩れや隆起などのために通行不可能となりました。また津波による家屋の倒壊や、輪島地方での大規模な火災などが発生しました。みなさんもこのニュースにくぎ付けになったことと思います。この地震により二四一人の死亡が確認され、いまだに情報が確認できていない方もおられます。国や自治体などの懸命な支援にも関わらず、震災から三ヶ月以上たった三月末時点でも水道や電気などのライフラインが復旧していない地域もあります。今回の地震被害の特徴は、元日、半島で発生したこと、高齢化、過疎地、雪、道路事情などいくつもの困難が重なりあつて復旧復興を困難にしているこ

とです。当法人の事業所が所属している「きようされん」では、地震発生直後から会員の被災状況の把握に努めるとともに、一月四日から福井支部に物資の拠点を置き、食品や衛生用品などを四度にわたり届ける活動をしていいます。一月一〇日には能登半島地震災害対策本部を設置して、今後長期にわたる支援が必要になることを想定した支援を行うことを確認し、当面の支援活動として全国に募金を呼びかけがあり、わたしたち事業所も募金活動を行っています。じつは「きようされん」は二〇一一年のおきた東日本大震災で被害にあった作業所への支援を現在も行っています。特に原発事故により復興が遅々として進まない福島への一〇年以上に渡る支援は、現地の方たちにとっても必要なかわりとなっています。そして、こうした支援は

全国の組織である「きようされん」だからこそみんな支えてこられているのだと思っています。能登半島地震においても、五月から本格的な支援チームを組んで取り組んでいく予定です。ぜひ、「きようされん」を応援していただき被災地の方たちへの安心につなげていければと思っています。

▼**新年度を迎えて**

それぞれの事業所も新年度を迎えることができました。現在、「のぞみの家」「活動センター」かね「なかまの家」の日中事業所と学齢期の子どもたちを対象にした「このみ」の活動、そして、地域で安心して暮らしていくための生活寮である「うみ」「そら」「にじ」「かぜ」がうちの法人の事業です。三年ごとの国の事業所に対する報酬の見直しがあり、報酬が増えたり減ったりして安定して運営していくために試行錯誤

している状況です。長く障害福祉で働いてきていますが、この三年ごとの報酬の見直しは、事業所運営にとっても影響します。ぜひ、安定した運営ができる仕組みを国は責任をもって考えていただきたいと願います。

そして、障害福祉だけではないのですが、福祉や教育への仕事に就く若者が少なくなってきたと思います。この仕事はとても魅力のある仕事なのになぜ「働きたい」と思える職場にならないのでしょうか。わたしたちは日々利用者である障害のある人たちが安心して暮らせる地域をめざしています。多くの人に理解していただき、「あたりまえに暮らし、えらべる仕事」を実現できるよう運動もしつかりやっていきたいと思いません。

なかまの家
〜旅行〜



なかまの家の日帰り旅行は二グループに分かれて葛西臨海公園に行きました。二日ともに雲がひるがってましたが、雨は降っておらず、過ごしやすい気候での旅行でした。緊張する人もいれば、期待を膨らませている人など様々な表情を見せました。

旅行の内容はそれぞれ異なっており、一グループは水族館、二グループは園内の散策を行いました。

水族館で泳いでいる魚やペンギンを見たり、ホテルシーサイド江戸川でホテルランチを堪能し、公園内で散策したり、各々思いつき楽しみました。

今回の日帰り旅行では、感染症対策を徹底いたしました。次回も感染状況は油断できませんが、旅行を通して利用者さんの皆さんを楽しめられるよう企画していきたいと思えます。



のぞみの家く活動報告く

パフォーマンスレク

のぞみの家全体でパフォーマンスレクが開催されました。この企画には、いつもの給食とは違いお弁当を注文して食べたり、パフォーマーさんの大道芸を見たり聞いたりしながら、五感で楽しもう!という想いが込められています。

カラフルな衣装のピエロ姿に最初は緊張気味の皆さんでしたがバルーンアートの可愛い犬が出来上がると表情がパツと明るくなりました。予測できない犬が出来上がると表情がパツと道芸の展開にドキドキワクワク。私たち観客の反応に合わせて、一体となって芸を披露してくれるフォーマーさんに、すっかり魅了され楽しいひとときを過ごすことが出来ました。



活動センターかなえ 車内置き去り防止装置を設置しました

活動センターかなえでは、送迎車四台に「車内置き去り安全装置」を設置しました。昨今、子ども達が通う幼稚園や福祉関係の施設にて、送迎車に利用者を残したままにしてしまい児童や利用者が亡くなってしまおうという悲しい事故が起き、このような装置の設置が義務化になりました。東京都からの助成があり、活動センターかなえではマイクロバスを含め四台の車両に設置しました。

この装置は、運転終了後に車両のエンジンを切ると、車内の確認を促すアナウンスが車内に流れます。運転手は車内を確認し、確認ボタンを押すまでアナウンスが流れ続けます。四分経過しても確認ボタンが押されないと、「アラーム」(車両のクラクションとハザードランプが点灯)が激しく鳴り響くといった仕組みです。導入直後は意図せず「アラーム」が作動してしまいい大騒ぎになってしまったこともありましたが、安全に送迎が出来るよう、有効に活用していきたいと思えます。

法人内の各事業所では、順次全車両に設置しています。装置が設置されたことで、あらためて乗降時や走行中の安全確認の大切さ意識して運行しています。



このみ ちよっと前の…活動報告

節分にちなんで「鬼は外く福は内」と元気いっぱい子どもたちは豆まきを楽しみました。事前に鬼のお面を作ったり、鬼の絵を描き当日を楽しみ待っていたお子さんもいました。

※年齢の数だけ豆を食べるのは一年間の幸せを祈り米と同じエネルギー源で霊力を持つとされる豆をまくことで病や災いを払い、さらにその豆を食べることで力を頂けると考えられていたからだそうです。今年は思っていた以上にみんな豆まきを楽しむことができ、お豆を使い切ってしまった以上にもんな豆まきを楽しんだので、来年は食べる用の豆を用意し一年間健康に過ごせませうようにと意識しながら食べてみようと思います。



コロナ禍により活動を自粛していたおやつ作りでしたが久しぶりにチョコバナナ作りを行いました。バナナを皮むき、ナイフを使ってバナナをカット。串にバナナを刺してチョコレートでコーティング。初めてのおやつ作りをするお子さんもいましたが、上手に作れていました。本当は冷蔵庫でチョコレートが固まるまで待つと良いのですが、待ちきれず「いただきます」と口いっぱいチョコレートをつけて美味しく食べていました。

「がんばれ！イリアンソス」 陽だまり訪問看護ステーション

東久留米リハビリ主任 理学療法士

青木 彰宏 さん

「活動センターかなえ」「なかまの家」「のぞみの家」に、それぞれ月に一回訪問しています。最初は月に一回ずつの訪問でしたので不安と戸惑いがありました。訪問を重ねるごとに利用者の方々が私の顔を覚えてくださり、お会いした瞬間に満面の笑顔で挨拶して頂けたりして、その笑顔で私の方が元気をもらっている気がします(笑)。

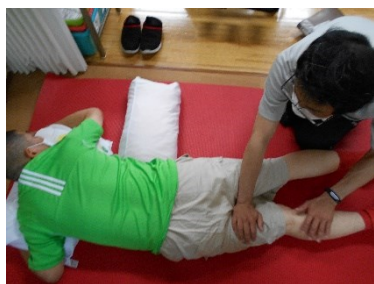
訪問した際には、身体機能の改善と今後予想される問題に對しての予防を目的に、普段スタッフさんが行って頂けるようなストレッチやマッサージのメニュー作成や環境設定、介助方法の提案をさせて頂いています。お体の状況は人それぞれに異なります。私が特に注目しているのは、お体の左右差です。普段の姿勢や病状による筋肉の左右差が時間の経過とともに拡大することがあり、現在は痛みがなくても将来的には問題を引き起こす可能性があります。例えば、右の骨盤が下がっている方の場合、そのままの状態では新聞折りなどの作業を続けていると、右の腰回りの筋肉は伸ばされ、左の腰回りの筋肉は縮まされていき、腰痛の原因になっていきます。この場合は椅子に右側のみタオルを敷かせて頂き、左右差を解消するような工夫をさせて頂いています。

あと印象的だったのは、全体で出来る体操を考えて欲しいというお話しを頂いた事です。各利用者さんの心身の機能が違う中で安全面と効果がある内容という課題に悩みました。最初は安全面を考慮して座って出来る簡単な内容でしたが、もっと運動強度の高い立位のメニューのリクエストも頂きました。立位の場合は転倒のリスクがあるため、ゆっくりとした運動を取り入れてみました。実際に行っている程度の期間が経つと、ゆっくりとしたものより早い動きを取り入れた方が良さそうとスタッフの方からのお話しを頂きました。普段体操の補助を行ってくださっているスタッフさんの貴重な意見を頂きながら、現在バージョンまで進化することが出来ました。

普段の活動に加えて、このように毎日少しでも楽しく身体を動かせる時間や身体の歪みの解消を図る時間を作ることで、一日一日では効果は小さくても、長い年月を経過していくとお体を元気に保てる期間に差が出てくるものと考えています。まだまだ至らない点は多々ありますが、今後もお手伝いさせて頂けると幸いです。



▲ 青木彰宏 さん



ご寄付をいただきました(2023年11月~2024年3月まで)
法人各施設にご寄付をいただいております。誠にありがとうございました。
いただいたご寄付は法人各施設の充実や、将来構想の資金として大切に使用させていただきます。

藤田祐子様

ありがとうございます。

社会福祉法人イリアンソス

●のぞみの家

東久留米市下里2-7-18
042-473-9027
042-473-9036 (F)
nozomi@iriansos.or.jp

●活動センターかなえ

東久留米市南沢2-20-51
042-452-6405
042-452-6415 (F)
kanae@iriansos.or.jp

●なかまの家

東久留米市中央町2-1-47
042-472-7130
042-444-3722 (F)
nakama@iriansos.or.jp

●生活寮「うみ」「そら」

東久留米市下里4-2-7
042-476-3400
042-420-5126 (F)
sora@iriansos.or.jp

●このみ

東久留米市幸町3-8-23
042-473-9667
042-420-9662 (F)
konomi@iriansos.or.jp

《発行》

特定非営利法人障害者団体定期刊行物協会

〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷3-1-1

ヴェルドゥーラ祖師谷102号室

Tel 03-6277-9611/Fax 03-6277-9555

《企画、編集》

社会福祉法人 イリアンソス

〒203-0043 東京都東久留米市下里2-7-18

Tel 042-473-9027/Fax 042-473-9036

《編集委員》

磯部光孝 ・ 多田由美 ・ 斉藤加奈子 ・ 津田雪枝
鈴木麻由佳 ・ 木村百合 ・ 江頭朱夏 ・ 小林玄斉
吉田遊佑



定価100円

表紙の写真

のぞみの家の皆さんが描いた絵画です。どれも個性あふれる絵です！